

2011.9.13

人に、自然に、やさしい地域づくりを目指して

社会福祉法人 潤沢会
ワークステーション湯田・沢内

〒029-5612
岩手県和賀郡西和賀町沢内字大野13-28-4
TEL0197-85-2019 FAX0197-81-2015

編集人/高橋和也
発行人/坂巻 熙
印刷/鶴田印刷株式会社

和と風と

No.36

ワークのジャガイモ 震災地へ

お盆過ぎの西和賀とはいえ、気温は三〇度。茹だるような暑さの中、ワークのジャガイモ畑からは、いつも以上に元気な声が聞こえてきます。これは、八月十九日（金）「盛岡医療福祉専門学校」の学生十二名が、当施設にボランティア活動の一環で訪れた時の様子。汗と土にまみれながら、一生懸命ジャガイモの収穫をしていただきました。



暑い中、利用者と学生が協力して収穫しました。

暑さとの戦いだった今年の農作業。春に種芋を植え、土寄せや草取りなどに汗を流しました。暑い日には、氷を背負って作業をしたことも。そんな苦労して育てたジャガイモが、収穫の時期を迎えたわけです。

収穫量は約三百キログラム。このジャガイモは、ふるさと宅急便やお弁当、キッチン〜風々のランチなどに使われます。

思いも一緒に箱に詰めて

「盛岡医療福祉専門学校」の学生が訪れた目的は、収穫の手伝いだけではありませんでした。今回、収穫したジャガイモの一部を購入。それを持ち、震災地である岩手県山田町の福祉施設でボランティア活動をするというのです。地域は異なりますが、大船渡市へ何度か足を運んでいる利用者。震災地の様子は目に浮かびます。

夏の暑さに耐え、大切に育てたジャガイモが、震災地に住む人たちに食べていただける。「頑張っただった！」とYさんが一言。利用者の収穫作業に一層力が入ったことは言うまでもありません。学生の皆さん

には、その思いをジャガイモと共に震災地へ運び、活用してくれることを期待しています。暑い中の収穫、本当にありがとうございました。

仕事を通して・・・

当施設では農作業や受託作業、食品の加工、製造作業などを行っています。これらを納品、販売し、それが利用者工賃となっています。その工賃を増やすことは、目標の一つでもあります。

しかし、誰かの役に立つ、喜んでもらうという体験もまた、日々の生活につながると思います。

利用者からは、「まだ、何かできることないかなあ」という声も…。仕事を通して、このような機会をもっと増やせればと思っています。

高橋 和也



ひと足早くジャガイモが震災地である山田町へ届けられました。

カレーライスからの卒業

「えっー 今日はい自分たちで好きなもの作るの？」と情報が電波のように流れ、誰と一緒にグループなのか、何を食べたいか、食べたいメニューを作るかなどなど、話し合いの前から意見が飛び交いはじけたポップコーン状態です。

さあ、恒例の調理実習の始まりです。



利用者が四グループに分かれ（ひとグループ八〜九人）まずは話し合い。「何を作るの？ 買い物は誰が行く？ 何を買えばいい？」と、それぞれ役割分担。十二時のお昼ごはんに間に合うように短時間で事を進めなければなりません。

「万能ねぎってどんなの？」と言いなながらも、買い物は手早く済ませ、いざ調理にかかると「あれあれ、パスタとレトルトソース三人前が一〇袋も。一人一袋の勘定のようにです。ポテトサラダを作るのにマヨネーズがない！でも、アイスクリームは山

ほど！。不安なスタート…。

「芋をつぶすすりこぎを借りてきて」と紙に書いて渡し、待てども届かない。メモは紙くずとなり床の上！「芋は熱いうちにつぶさないとだめだ」と借りに走る。

「ゆで卵に殻がいつぱいついてくるよ。これじゃくえねえよ」と困惑。かき揚げの材料は、きれいな干切り。しかし、真夏の天ぷらあげに汗だく。しかし、揚げたてのかき揚げが目玉のメニューだけに必死です。「焼きそばを九人分いつきに作れない！どうすんだ？」とホットブレ



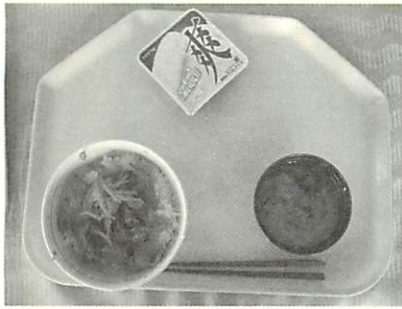
ートとにらみっこ。「生卵を割るのが初めてなんだ」と言い、目玉焼きの卵を割りに初挑戦の利用者。「えっそんなあ〜黄身がこわれるよ」と、同グループの心の叫び。「お米ときは家でもやってる」と、さっさと済ませ炊飯器と睨めっこ。「私は、皮むき専門よ」と丁寧

の利用者がシャシャシャと刻み、みんなでお味見。こうして、自信満々のお料理の出来上がり。どのグループも、目に美しく、お腹に満足、心に豊かなものでした。お味のほどは？

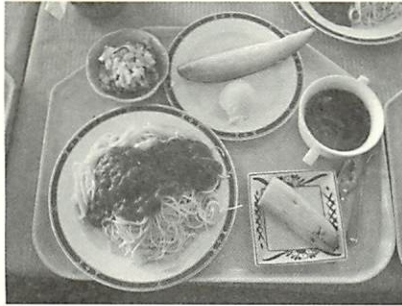
継続は力なり

当施設は、新事業体系に移行し早五年が経ちました。これまで土曜日の活動は、普段の作業に捉われず、ゆとりあるものを計画してきたところ。そのひとつとして、親が高齢になってもこの地域で暮らしていくために、簡単なお料理ができたらいいな」と始まった調理実習。あまり背伸びせず簡単なものを繰り返して作るメニューには、カレーライスです。

継続は力なりとはよく言うものです。五年も続けていると、洗う、皮をむく、材料を切る、炒めるなど、みんなですぐにできること、ルールが理解され、チームワークよく一人一人に合った分担を自分たちで行います。調理も手際よくなり時間も短縮されてきました。ご飯を炊く、サラダを作るなど、バージョンアップを図り、今回の「カレーライスからの卒業記念調理実習」となりました。出されたものを食するだけではなく、仲間と計画から買い物、お料理まで、自分ができることを見出しながらチャレンジしていつてもらいたいと思っています。一流シェフを目指して…。



安全・安心チーム



イタリアンチーム



本格手作りチーム



B級グルメチーム



被災地陸前高田市から避難してきた葉っぱ(仮名)ちゃん。

四月、町内の旅館で避難生活を送っていたところ、当施設の存在を知り通所が始まりました。甚大な災害、両親と離れて見知らぬ地での生活、そして自らの障がいに向き合う。幾重にも抱える不安が、背中を丸めうつむき加減な歩き方や小声でうなずくのがやっとの会話だったのでしょう。

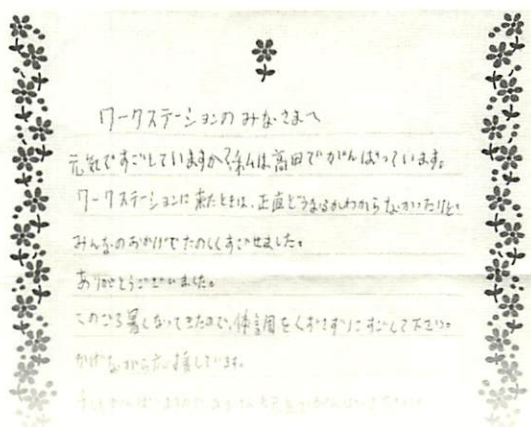
西和賀の方言が飛び交う施設で、みんなと馴染めるかどうか心配でした。がしかし、ご本人の「今を乗り越えなければ」という強い気持ちと「津波で大変だったね」と葉っぱちゃんを温かく迎入れた利用者。五月、笑顔がみられ挨拶をする声もはつきりとし背筋が伸びて、一緒に昼食を摂る友達もできました。ファイト葉っぱちゃん！作業もスピードアップです。

六月、陸前高田に一時帰宅して「ライフラインがまだで、水も出ないんです」と現実を目にして復興への道のりの厳しさを実感。反面、病状は落ち着きつつあり、当施設のソフトボールチーム結成に参加。初めてのソフトに一生懸命となり葉っぱちゃんのチャレンジ。

七月、明るく話しかけてくるようになった葉っぱちゃん。ソフトの試合では、セカンドを守り、フルスイングで試合に貢献。避難生活が終わるころには、「年金はまだありません。もう一度就職にリベンジしたいので」と自分の暮らしや将来をしっかりと考えていました。

未曾有の出来事とは裏腹に、どん底に落ちた葉っぱちゃんが前向きに生きていくと大変身した過程で、優しく受け入れた利

用者と早く笑顔を取り戻す日が来るようにと関わりを深めた職員。
繋がりから絆となり、人には未知なる可能性が秘められていることを感じた葉っぱちゃんからの手紙です。
高橋 育子



「風声」



理事長 淑徳大学名誉教授
坂 巻 熙

PPK あれはイケマセン

耳にしたこと、おありでしょう。そう、評論家の樋口恵子先生が講演会などでよく言っていた。ピンピンコロリ。普段は元気できて、死ぬ時はコロリ、

これが理想の死に方、という説です。僕、なるほどなあと考えたこともあったけど、今は、とんでもない。三・一一の東日本大震災が、もし一週間遅かったら、僕と相談役は間違いなくピンコロでした。山田町の「カキ食べ放題ツアー」に参加する事になっていたのです。

地震があつて、「津波が来るぞ」と言われても、根が素直でない僕のこと、「なに、大したことあるまいよ」。まして美味しそうなカキが並んでいたら、食いしん坊の僕、もう一つ、あと一つで、間違いなく波にさらわれていたでしょう。ツアー参加は息子にも施設にも言っていないので、その日を境に、僕ら二人は忽然とこの世から消えたことになる。まさか津波とは思わなかったらうから、「理事長・相談役 謎の蒸発」「施設運営に行き詰まりか」などと、新聞に書かれたりして……。いえ、行き詰ってはいませんのでご安心を。念のため。

過日、沢内病院に四日間入院し、柄にもなく「死」を意識した。なに、重い病気ではないのですが、他にやることもなく、そろそろ遺言書か、とか、葬式はハデハデにお坊さん抜きでとか、そんな程度の思いですが、これ結構「楽しい」のです。死の準備。PPKではこれが出来ません。そこで僕、PPKと言うのはヤメよう。

共同募金助成による車両整備

沢内村の福祉共同作業所時代から、利用者の送迎やお出かけを担ってきた624(送迎車)。約十年間ひたすら頑張り続け、走行距離は約十八万km。故障も増え、ついにお別れです。そして、この後を引き継ぐのが5574。

この車両整備事業は、「赤い羽根共同募金」から百五十万円の助成を受け、実施しました。十月一日から「赤い羽根共同募金」が始まります。西和賀町にも、このようにして募金が役立てられています。本当にありがたいことです。そして大切に使用させていただきます。

高橋 和也



大切に使用させていただきます！！

ありがとうございます

少しでも皆さんの手助けを



行政書士
「柴田事務所」
柴田 壽
(東京都 足立区)

「ワークステーション湯田・沢内」さんとの付き合いは、開設以来です。相対長くなります。

ふるさと宅急便が届くのを毎回楽しみにしています。届いたら、すぐに封を開けて、料理をし、妻と「新鮮だね、美味しいね」と言いながら食しています。また、毎年十一月に開催する東京の飯田橋での「ふるさと交流会」に参加させてもらい、坂巻理事長さん夫妻、高橋施設長さん

と会えることも大きな楽しみのひとつです。

ところで、三月十一日の東日本大震災は、障害者、高齢者等の弱者に負担が皺寄せされているのが現状です。日本の福祉の現状が露呈しています。このような弱者の生活及び権利をどう守っていくかが今後の課題だと思えます。直接の被害はなかったと思いますが、ワークステーションが円滑に運営されているのは、通所者の皆さんそしてスタッフの日頃の努力の賜物ではないでしょうか。

私は、昨年四月に三十六年勤めた職場を退職しました。東京の足立区という所で行政書士事務所を開業しています。今までより、自由な身になりましたので、距離は離れていますが、少しでも皆さんの手助けをしていければと思っています。

心のコモったメッセージ続々

～ふるさと宅急便～

六月・九月・十二月・二月の年四回発送している「ふるさと宅急便」。毎回、アンケートハガキを同封させていただいておられます。その宅急便のご意見・ご感想がたくさん届いています。中には、「こんな料理に使ってみたらよ」とレシピを教えてくださいと送り送ってくださる会員の方もいらっしゃいます。

今回は、そんな心のコモったおはがきを、ほんの一部ではありますご紹介いたします。

高橋 和也

初めてのふるさと宅急便ありがとうございます。期待したとおり、すべてに満足させて頂きました。

Y・M 様

六月便ちようだいしました。日本中大変な時、いつも通り送って頂き、ありがたい事です。

K・N 様

「わらび」は夫の大好物です。よくここまできれいに・・・。ふるさと宅急便とのおつきあひも二〇年になりました。

H・M 様

ゆる〜っとリラックス!! 「ゆる体操」講座

当法人理事長の友人であり、サポートでもある「楠田初江」さんは、「NPO法人 日本ゆる協会」の「ゆる体操」準指導員一級。「是非！ワークステーションの皆さんも」と、八月二十四日(水)千葉県から駆けつけてくださいました。

ゆる体操とは、固まった体をゆるめ、体のコリや血液の循環をよくし、誰でも簡単に楽しくできる体操です。早速、朝礼でご指導していただきました。始めは「ゆる体操って何?」とあまりなじみのない体操に緊張気味の利用者。しかし、楠田さんが「手首プンプン」や「肩こりギュードサ〜」などユニークな表現を取り入れながら、実際にやって下さると

「誰でも簡単にできるね」「なんか楽しい!」と利用者。その後は、さらに詳しく生活介護グループの利用者、職員にご指導くださいました。

最近、外では畑の草取りや収穫。作業室では製造、販売活動、受託作業が忙しく、利用者は一生懸命作業に取り組んでいます。中には、長時間同じ姿勢での作業や、細かい作業もあり、肩こりや疲れを訴える利用者も出てきています。また、冷え性の方も。

作業の合間やお昼休み、レクリエーションに取り入れながら、「ゆる〜っとリラックス」な時間も作っていきたいと思います。

千葉 侘奈



「ゆる体操」で皆リラックス!!

またもや1勝できず…。



負けはしましたが、全力で戦いました！！

五月から活動を始めたワークステーションのソフトボールチーム。初めての試合が七月二日に開催された「県社協県南ブロックのソフトボール大会」でした。昨年は職員のみで参加し一勝もできず惨敗を喫したこの大会。今年は職員、利用者の合同チームで一応「優勝」を目標に参加しました。

結果は、またもや一勝もできず…。ですが、利用者にとっては初めての試合ということもあり、いい経験、いい刺激になったようです。九月には大会や合同練習会への参加も予定しています。今後のワークソフトボールチームの活躍に乞うご期待！

高橋 健一



「あっ！！あの馬速そう」とレースも期待が高まります。

その後は、どのグループも買い物や外食をしました。西和賀町から盛岡市や北上市へ出掛けるには、一時間以上はかかります。また、公共交通機関も決して便利とは言えません。このような機会を重ね、社会のマネーを身につける。最終的には自分たちで計画し、お出掛けするのが目標です。

高橋 順子

「夏祭りの笛や太鼓の音が流れて来るお盆の頃はたいして満月で一番好きな季節だった。稲穂の夜露が月の光できらきらしている田のク口に座って、嫁に来たばかりのかかに、出稼ぎの長い不在を詫び、親のこと、田畑の苦勞をねぎらったものよ。今年は、孫が成人式に帰ってきた。ちゃっこかったわらし遅しくなつて」。

八月十五日西和賀町の成人式。参列したお年寄りがほつりと。新成人九十名のうち六十六名の出席壇上に写し出された中学の卒業写真を前に、災害地へ派遣された若き自衛官は一国や人びとの幸せを守るために働く」。役場職員となった若者は「町民の福利安寧に努

古希のハッピートーク No.5

める」。学生は「いつか帰ってき町に役に立ちたい」。家を継ぐ若者は「田畑を守り、町の繁栄に寄与したい」と頼もしく希望や抱負を語りました。一年のうちで一番華やかなお盆時も過ぎ、お墓の花々も枯れる頃、赤とんぼがお目見えし、ススキや萩やオミナエシが風に揺られ、間もなく稲刈り。収穫の秋。ワークステーションの利用者も支えてくださる方々に感謝しながら、秋の旅やいも煮会に胸躍らせてすき鋤を握ります。やがて長い長い冬。残された私たちは、少子高齢、過疎の町に若者が戻ってこれるような魅力ある町づくりを語り合おうのです。

(相談役 坂巻 潤子)

西和賀町を飛び出して

七月十五日から八月一日にかけて、利用者のお出掛けをしてみました。今回は四グループ三コースにわかれ、希望するコースを選択。

七月十五日は「高校野球応援コース」。昨年も応援に出かけた高校野球。今年も地元、西和賀高校を応援しました。残念ながら負けました。しかし、最終回まで白熱した試合に、利用者も感動。「来年はもっと応援して勝ってもらいたい！」と利用者のSさん。

十九日、二十日は、盛岡市民文化ホールで開催された「光アートコー



地元の高校を一生懸命応援する利用者。

西和賀町の放射能の状況

東日本大震災による原発事故以来、放射能が健康に与える影響や食の安全・安心を心配する声がここ西和賀でも高まっています。

町では、八月に四回町内保育施設、小・中学校をはじめ学童クラブ、プールなど子供供達を取り巻く環境を中心に、二十一施設三十六地点に於いて、それぞれ地上高10cm、50cm、100cmの測定を行っています。

その結果によると、文部科学省・厚生労働省による「避難区域等の外の地域の校舎・校庭等の利用判断に係る暫定的考え方」に基づき、屋外活動の制限の指標である三・八μSv(マイクログローシーベルト)／時を全ての地点で、大きく下回

っています。殆ど自然界に於ける放射線量の範囲内かと思えます。町では引き続き、九月以降は月二回保育施設、小・中学校について測定を続けるとしています。

農産物については、これから本格的に始まる獲れ秋、その中心の米は、県内全てで検査することとして、それまでは絶対に他人に売ることがは勿論、配ってはならないと県では呼びかけています。県南市町から既に調査の刈り取りが始まっています。西和賀町では九月二十一日サンプルを採取、九月二十七日には調査結果の公表を予定しています。農家はたわわに実って日に日に黄金色を増す田圃にとを今から祈るようにつめていきます。

西和賀町議・潤沢会理事長代理(第二) 湯沢 正

障がい者施設による地域起こし 障がい者が核となる都市と農村の交流事業

ふるさと交流会

西和賀町を心のふるさとにする都市住民、都内の在宅障がい者、西和賀町出身者と西和賀町に暮らす障がい者との交流を図る中から、都市と農村の共存のあり方を考え、更に障がいを持っている人でも地域起こしの主体となれることを実感し、「福祉でまちづくり」を全国発進していこうとするものです。

とき 平成23年11月23日(水)

ところ 東京都新宿区神楽河岸1-1

「飯田橋セントラルプラザ」
(JR飯田橋駅徒歩1分)



- ・郷土料理の紹介
- ・郷土芸能
- ・旧湯田町出身者、旧沢内村出身者、ふるさと会員、関係者、スタッフの交流会
- ・会費/3,000円

※どなたでも参加できます。参加申し込みは11月15日まで、下記へご連絡ください。

障がい者施設による地域起こし・障がい者が核となる都市と農村の交流事業

お問い合わせ・連絡先

ワークステーション湯田・沢内

〒029-5612 岩手県和賀郡西和賀町沢内大字大野13-28-4 (障がい福祉サービス事業所)
TEL/0197-85-2019 FAX/0197-81-2015

東京ボランティア市民活動センター
TEL/03-3235-1171

湯けむり日記

節電とエアコン

今年の夏はとにかく暑かった。ということ「湯川ハウス」にも、ついにエアコンを設置。節電の夏とはいえ、熱中症の心配もありました。まずは、建物の構造上、室温が高くなりやすい「鳳鳴館」三部屋に設置。

もちろん設定温度は二十八度。「エアコン使った分、節電しなきゃね!」と入居者。節電とエアコンを上手に使い分けた夏となりました。

高橋 和也



施設長敬白

ケアホーム「湯川ハウス」は、七月一日から定員十名に増員し再スタートしています。二棟体制で、高藤館で六名、鳳鳴館で三名が生活しています。温泉付きのケアホームは、全国的にも珍しく、グレイドの高さで好評を博しています。

温泉は西和賀町の宝の一つです。福祉や医療サービスの資源としても有効です。残念ながらその活用は充分とは言えません。

西和賀町は高齢比率が四割を越え、一人暮らしの高齢者は三〇〇人ぐらいと聞いています。

西和賀町は積雪の期間が長く、平均すると十二月七日から翌年の四月十五日までの一二九日が根雪期間と言われています。積雪、寒冷地を想定した高齢者や障がい者の冬季居住の工夫が必要です。更に東日本大震災以降、「絆」、「共同」、「コミュニティ」が見直されています。

湯川ハウスの経験を生かし今こそ、西和賀町内の温泉宿を活用した、共同の冬季居住、昔からの「湯治」のような形態を事業化することが求められています。ワークステーション湯田・沢内でも研究中です。

施設長 高橋 典成

編集後記

これでもかと、自然災害。自然は恐ろしい。でも、「春夏秋冬」楽しませてくれるのもまた、自然なのです。

高橋 和也